

原子力基礎基盤戦略研究イニシアティブ
復興対策基礎基盤研究プログラム
事後評価総合所見

評価の概要		
研究課題名：リスクマネジメント基盤技術としての地震リスク評価の信頼度向上に関する研究 研究代表者（研究機関名）：村松 健（東京都市大学） 再委託先研究責任者（研究機関名）：高田 毅士（東京大学） 再委託先研究責任者（研究機関名）：西田 明美（日本原子力研究開発機構） 再委託先研究責任者（研究機関名）：内山 智曜（株式会社シー・エス・エー・ジャパン） 研究期間及び研究経費：平成24年度～平成26年度（3年計画） 95百万円		
項目	要 約	
1. 研究の概要	本研究では、原子力施設のリスクマネジメントの基盤技術としての地震起因事象に関する確率論的リスク評価（地震PRA）の信頼度を向上させ、活用促進に資することを目的として、地震PRAの不確実さの新たな評価手法とその評価に必要な計算コードを提供することを目標に研究を行った。	
2. 総合評価	B	損傷の相関性を考慮しつつ不確実さ解析ができる機能を持つコードを開発出来たこと、フラジリティ評価における認識論的不確実さの要因の抽出とその要因をモデル化する際のガイドが得られたことは、相応の成果が挙げられていると評価できる。地震PRAでは、多くの不確実さがあり、どこに（モデル、評価因子など）不確実さがあり、なにが明確化できる不確実さか、どのように不確実さを減らすか、など難しい研究課題に対しては「標準専門知ツリー」による体系化とサイト固有の専門知を分類して適用することにより、その実効性が評価された。これに基づき3次元解析モデルによる地震建屋応答解析の直接法を実施することで、地震PRAの信頼度が大きく改善されることが示された。今後は、まだ実用的に用いられている応答係数法への適用を含め、手順書の整備を行い、実務に役立つものとして、地震PRAの信頼度の向上に資することが期待される。 S) 極めて優れた成果が挙げられている A) 優れた成果が挙げられている B) 一部を除き、相応の成果が挙げられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんど挙げられていない